

読書活動推進事業 ～「読書が育てるまちの未来」～

土岐市教育委員会 読書活動推進室

〇はじめに（背景）

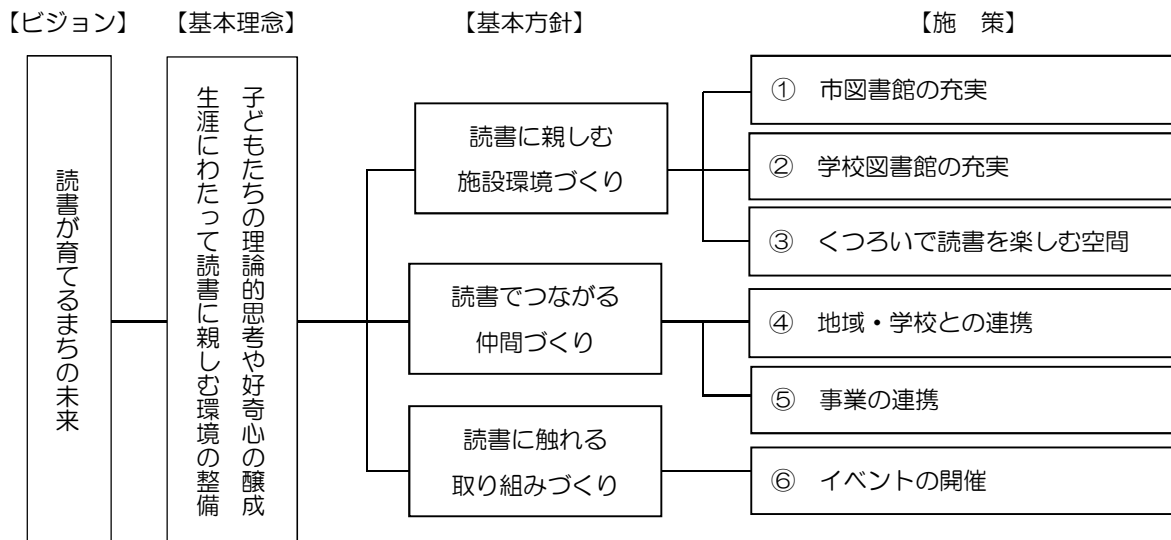
近年、生活環境の変化や様々なメディアの発達・普及などを背景として、「読書離れ」、「活字離れ」が指摘されています。

読書することは、「考える力」、「感じる力」、「表す力」等を育てるとともに、豊かな情操をはぐくみ、すべての活動の基盤となる「価値・教養・感性等」を生涯を通じて涵養していくうえでも、極めて重要です。そこで本市では、「子どもの読書活動の推進に関する法律」の趣旨に基づき、「土岐市子ども読書活動推進計画」（平成23年度から5年間、第二次計画が平成28年度から5年間）を策定し、さまざまな取り組みを進め、読書活動の推進を図ってきました。そして、第二次計画が令和2年度をもって満了することを契機として、当該計画を発展的に引き継ぎ、全市民を対象とした「土岐市読書活動推進計画」を策定しました。

〇土岐市読書活動推進計画（計画期間：令和3年度から令和7年度）

市図書館、学校、家庭、地域等が連携し、読書環境の整備に努め、世代や地域、障がいの有無を問わない読書活動を推進の柱とします。積極的な推進によって、まちの文化や未来を担う人材の育成、子育て世代の重要な関心事である教育の充実により、まちの魅力の向上を図り、「読書が育てるまちの未来」の実現を目指していきます。

<計画の体系>



〇主な課題

・市図書館の状況・・・コミュニティを形成する場所として十分な機会とスペースを確保できていないことや、市民一人当たりの貸出密度が地域により大きな開きがあり、設置場所による地域格差がみられます。

・「読書が困難な人」への対応・・・令和元年度に読書バリアフリー法が施行されましたが、障がい者や高齢者などの「読書が困難な人」にとって利用しやすい読書環境の整備や書籍・サービス等の導入はまだ不十分ととらえています。

・学校図書館の環境整備や学習支援・・・本市の小中学校の学校図書館には司書が配置されていなかったため、蔵書の入れ替えが進んでいない、市図書館との連携や学校図書館の役割である学習支援が行われていないなどの課題があります。

〇ここまでの主な取り組み

・市図書館改革推進事業・・・ハード面では、①魅力化（若い世代を中心に、従来とは異なる利用層を呼び込むため書架や家具など内装のリニューアル）、②効率化（利用者サービスの充実や職員業務の効率化を図るため導線の見直し）、③安全・安心化（災害や感染症対策、問題利用者への対応が迅速にでき、利用者や職員が安全安心に利用できる施設とする）の3点をねらいとした館内リニューアルを、ソフト面では、読書活動を積極的に推進するため、①資料管理、②人材育成、③リスク管理、④読書PR、⑤情報共有等、職員のワークショップや研修を通じて様々な角度からアプローチするなど、ハードとソフトの両面から市図書館改革に取り組んでいます。

・電子図書館の開設・・・いつでもどこでも24時間365日、貸出、返却等が可能であり、来館が困難な方の利便性向上を図るとともに、コロナウイルス感染症対策にも寄与することから、「ときし電子図書館」を開設しました。読書サービスのすそ野が広がり、気軽に読書を楽しんでいただくことで、新たな読書習慣が定着することを期待するものです。

・土岐ブックフェス・・・本市出身でフリーアナウンサーの近藤サト氏を審査員とする小中学生による朗読コンクール、同氏による講演会のほか、読み聞かせ会や市図書館の本プレゼントなど市民参加型イベント

「土岐ブックフェス2020」を開催し、市民が読書に触れる取り組みづくりを推進しています。

・読書っこクラブ（朗読会、子ども司書）・・・読書活動を通して、子どもたちに広い視野と柔軟な発想や創造性などとともに、物事を論理的に考える力や、自らの主張を正しく伝え、理解してもらう力などを身に付けることを目的として「とき読書っこクラブ」を組織しました。朗読会やこども司書講座を実施し、子どもたちが地域（学校）において読書のリーダーとなることを期待するものです。

・学校司書支援員の配置・・・令和2年度から、まず西陵地区をモデル地区として3名の学校司書支援員を配置しました。令和3年度から市内小中学校に対応するため新たに1名増員して、児童生徒のニーズを把握した選書や、調べ学習のサポートなどを行い、子どもたちの読書率の向上、情報収集・選択、活用能力の向上に取り組んでいます。



土岐ブックフェス2020・朗読コンクールの様子

〇おわりに

本市では、令和2年度より読書活動推進事業に取り組んでおり、令和3年度には土岐市読書活動推進計画のスタートに併せ、実施体制として、教育委員会内に読書活動推進室も設置されました。

コロナ禍で事業が実施できないことや内容を見直さざるをえないなど難しい状況の中ではありますが、事業を進めていく中で、中高生の読書率向上や、幼稚園、保育園、こども園との連携といった取り組むべき課題もみえてきました。

引き続き「読書が育てるまちの未来」の実現に向けて、様々な視点から読書活動推進に取り組んでまいります。